

介護施設における薬剤師による往診同行の必要性

伊藤雪絵、渡辺淳志、遠藤寛之、前田花子、宇美香与子、立川靖之、尾崎覚、三宅宏昭
株式会社 クリエイトエス・ディー

【はじめに】

高齢者の人口比率が年々高まり介護を必要とする人が増加している中、介護の場においても薬剤師が積極的に職能を発揮していく必要がある。

【目的】

当社では連携する介護施設において、薬剤師が医師および看護師の往診に同行することで入居者に対する薬剤管理指導の質を高めている。しかし、薬剤師の往診同行に対して、医師と看護師が期待している役割についての詳細は明らかにされていない。そこで、介護施設における薬剤師の往診同行について医師、看護師および薬剤師に対してアンケート調査を行い、薬剤師による往診同行の必要性について検討した。

【方法】

介護施設において、往診に関わる医師、看護師および薬剤師にアンケート調査を行った。医師と看護師に対しては各種情報提供等で薬剤師に期待している役割について、また、薬剤師には往診および処方設計時における意見提案の可否や有益な情報提供等の事例について調査した。

【結果】

アンケート調査の結果、薬剤師の往診同行で最も期待されている役割は、医師において「持参薬や他科受診薬の有無およびその相互作用と重複投与の確認」であり、看護師において「特殊な用法の薬や重篤な副作用のある薬に関する情報提供」であった。薬剤師による有益な情報提供としては、持参薬および残薬の調整やコンプライアンス改善のための用法および剤形変更に関する内容が多く見られた。また、検査値や体調変化などから医師に処方提案を求められる事例もあった。

【考察】

アンケート調査より、薬剤師による往診同行に対して医師および看護師が最も期待している役割において違いが認められたことから、各々の求めに応じた情報提供を行う必要がある。一方で、往診同行においては薬剤師に高度な判断を求められる場合もあることから、薬剤師は状況に応じた薬学的な提案を適切に示せることが重要である。今回の調査より、医師や看護師は併用薬、相互作用、重複投与および副作用などの情報提供を薬剤師に期待していることから、これらの職務を確実に果たしていくことであれば介護施設において薬剤師が往診同行する必要性は今後さらに高まるものと考えられる。

【キーワード】

往診同行、介護施設、薬剤師、情報提供、アンケート調査